大林製糸所あと

明治時代、政府は「富国強兵策」をすすめるための一つとして、製糸業に力を入れました。豊橋でも製糸業の育成に力を入れた人たちがたくさんいました。カイコガのまゆから糸を作るのです。

羽根井小学校区の花中町にもまゆから糸を作る大きな製糸所がありました。

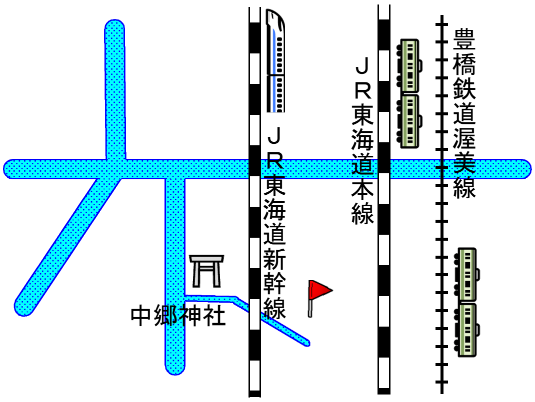
名前を「大糸製糸所」といいます。

大林製糸は、大林宇吉氏が小渕しち氏の協力で明治 21 年に開業したもので、明治 44 年に花中町に移転して操業を続けてきました。はたらいていた女工さんは豊橋や渥美だけでなく、鳳来や静岡県からも来ていたそうです。全員が寮に入り働いていたそうです。昭和 20 年代の工場では、午前 7 時 30 分から午後５時までが働く時間で、途中 12 時から 40 分間の昼休み、10 時と３時に 10 分間ずつの休けいがとられ、１日に８時間 30 分働いていました。仕事が終わっておふろに入ってもにおいがなかなかとれないので、「工場の人はすぐにわかる」と言われたそうです。

平成７年（1995 年）に操業が終わってしまいましたが、平成 10 年（1998 年）

までりっぱなまゆ倉庫が残っていたそうです。

現在、工場のあと地は住宅地や公園にかわってしまいました。花中第三公園に大糸製糸があったことをしめす石ひがあります。



〈参考資料　『豊橋校区史 44　羽根井』〉

羽根井小　中野　敦生